



第117期(2026年3月期) 中間 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2025年12月2日

目 次

1. 第117期(2026年3月期)中間決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第117期(2026年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

目 次

1. 第117期(2026年3月期)中間決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第117期中間決算概要：連結貸借対照表（資産の部）

(単位:百万円)

科 目	2025年3月期末 (第116期末)	2026年3月期 (第117期上期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,559	22,272	▲286	▲1.3%
現金預金	6,380	6,022	▲358	▲5.6%
売上債権	10,980	11,126	146	1.3%
棚卸資産	5,019	5,036	17	0.3%
その他	178	86	▲92	▲51.7%
固定資産	15,250	16,397	1,146	7.5%
有形固定資産	7,062	6,817	▲245	▲3.5%
無形固定資産	792	723	▲68	▲8.6%
投資その他の資産	7,395	8,855	1,459	19.7%
資産合計	37,810	38,669	859	2.3%

第117期中間決算概要:連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位:百万円)

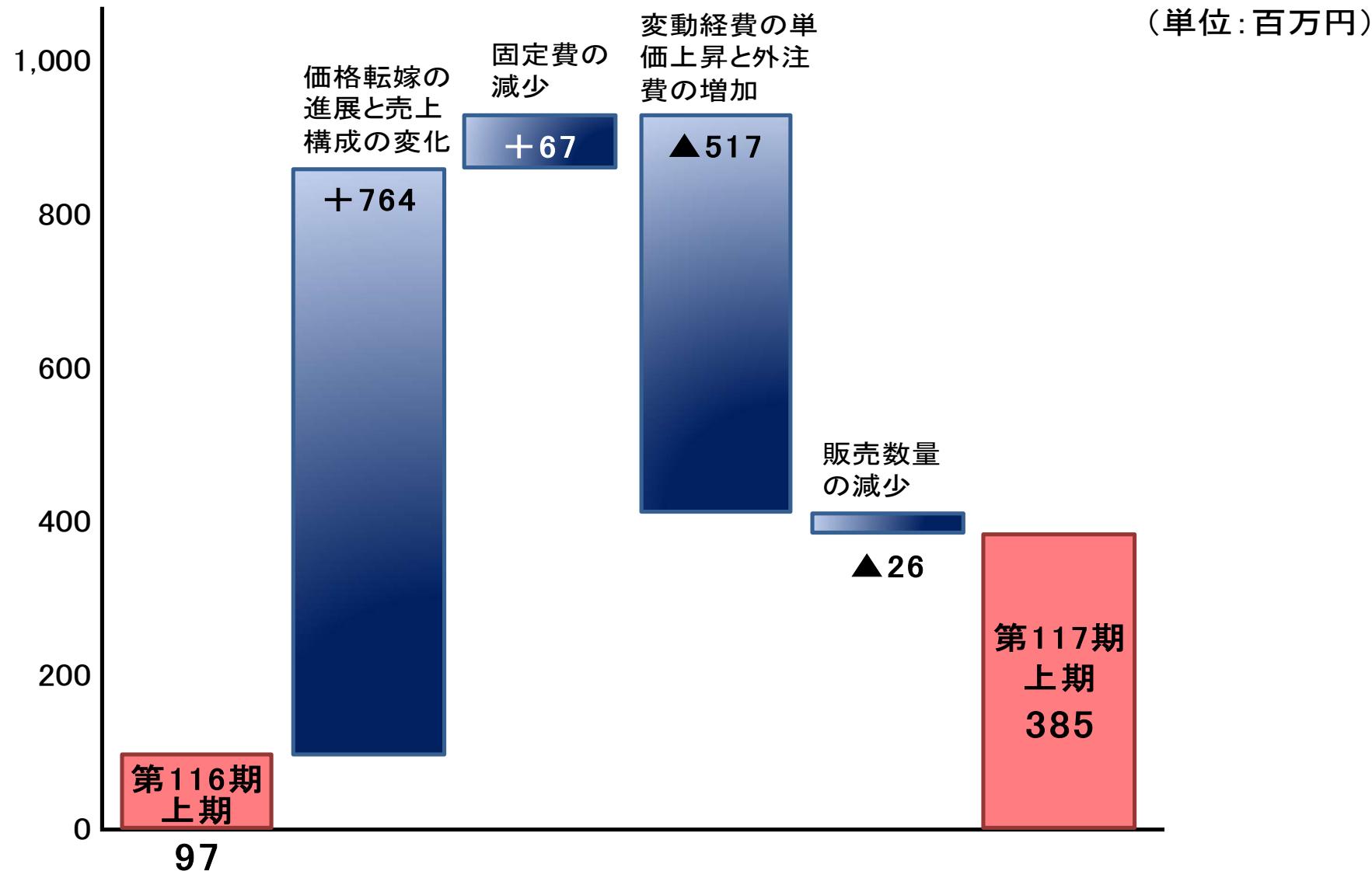
科 目	2025年3月期末 (第116期末)	2026年3月期 (第117期上期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	13,316	12,658	▲657	▲4.9%
仕入債務	6,739	6,685	▲54	▲0.8%
短期借入金	4,370	3,860	▲510	▲11.7%
その他	2,206	2,113	▲93	▲4.2%
固定負債	3,475	3,731	255	7.4%
長期借入金	847	720	▲127	▲15.0%
その他	2,628	3,011	382	14.6%
負債合計	16,792	16,390	▲401	▲2.4%
純資産	21,018	22,279	1,261	6.0%
負債及び純資産合計	37,810	38,669	859	2.3%

第117期中間決算概要:連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2025年3月期 (第116期上期)	2026年3月期 (第117期上期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	14,915	15,526	611	4.1%
売上原価	13,168	13,450	281	2.1%
売上総利益	1,747	2,076	329	18.8%
販売費及び一般管理費	1,649	1,690	40	2.5%
営業利益	97	385	288	296.9%
営業外収益	127	149	21	17.1%
営業外費用	68	36	▲31	▲46.3%
経常利益	156	497	341	218.9%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	33	—	▲33	▲100.0%
税金等調整前中間純利益	122	497	374	305.0%
税金費用他	15	114	98	620.0%
親会社株主に帰属する中間純利益	107	383	276	258.3%

第117期中間決算概要：営業利益の要因分解



目 次

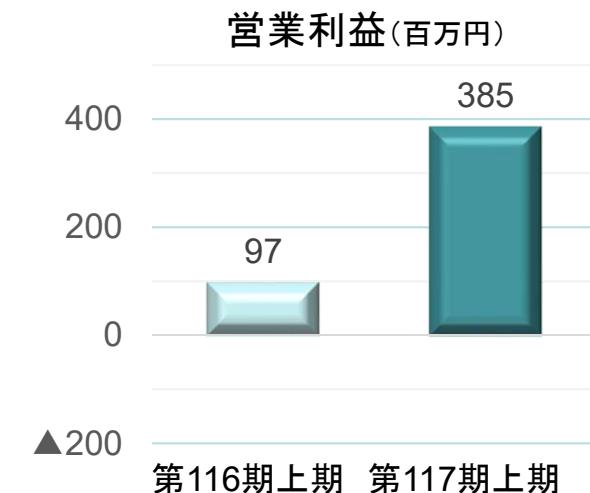
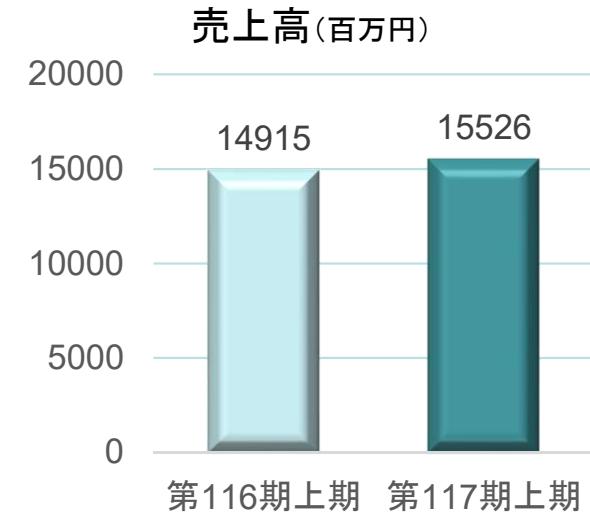
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

(単位:百万円)

科目／セグメント	2025年3月期 (第116期) 上期	2026年3月期 (第117期) 上期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	14,915	15,526	611	4.1%
軽包装材料	6,521	6,407	▲114	▲1.8%
産業資材	5,041	5,050	9	0.2%
機能性材料	3,115	3,786	671	21.5%
その他	237	281	44	18.9%
営業利益	97	385	288	296.9%
軽包装材料	133	205	72	54.1%
産業資材	▲99	117	216	—
機能性材料	59	14	▲44	▲74.8%
その他	4	47	43	1030.7%



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況(軽包装材料)

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 自治体(災害用)
- その他日用品等製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場

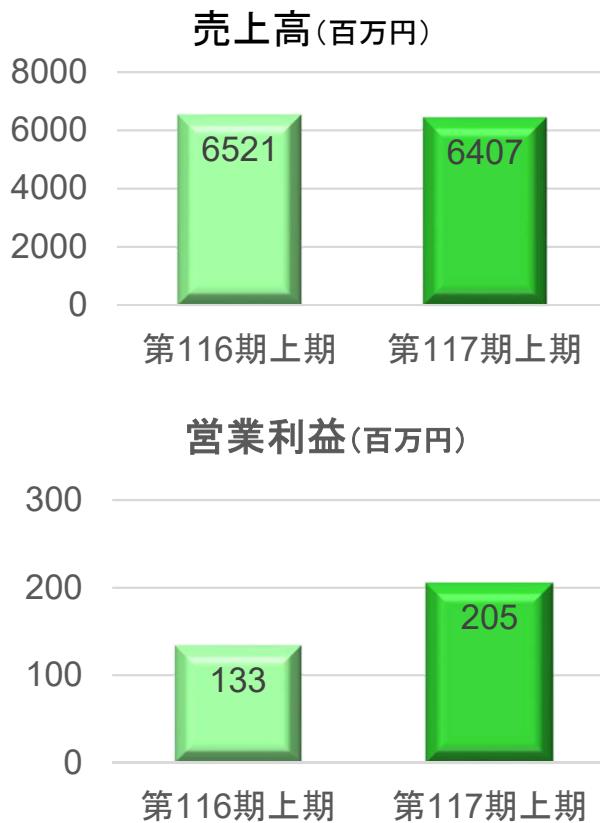


東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料



- 売上高 : 6,407 百万円 (前年同期比 1.8 % 減)
- 営業利益 : 205 百万円 (前年同期比 54.1% 増)

- 減収増益
- 出荷数量減少

価格改定により販売単価が上がるも、出荷数量が減少。数量減少要因は市場動向に加え、不採算案件の見直しによるところが大きいが、前年同期よりも利益は確保できた。

食品用包材

レンジ袋や易開封性フィルムなど、食品の調理・開封を便利にする包材を展開

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- SDGsを意識したニーズ高まる



上期概況

- 猛暑による外出控えで、外出先での飲料需要が落ち込んだ結果清涼飲料用パウチの出荷が低調
- 食品価格高騰の影響を受け、電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」の販売が伸び悩み
- 易開封フィルム「ポロソ」好調

収益性・成長性

- 共働き・単身世帯・高齢化による時短ニーズの増加
- レンジによる省エネ・GHG排出量削減効果への期待

上期売上高 3,325百万円

前年同期比 ▲21百万円



医薬品・医療包材

徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向



上期概況

- 高い防湿性・透明性に優れたPCTFEフィルムを使用した、PTP用包装材『テクニフィルム』が新規採用され売上増

収益性・成長性

- バイオマスPTPシート「Medi Green」に期待
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

上期売上高 1,158百万円
前年同期比 +77百万円



日用品等の包材

多様な製品展開で受注変動リスクに対応
独自製品の開発・拡販に注力

市場環境

- ・環境対応包材の引き合い堅調
- ・プラボトルからパウチ化により使用プラスチック量の削減と、ゴミの減容化が進む



上期概況

- ・防災時にも使用されるエアー緩衝材が好調
- ・消費者の買い控えが響き、詰替え用途は苦戦
- ・受託生産が好調

収益性・成長性

- ・環境対応製品として、基材に紙を使用した包材を順次上市
- ・アルコール等従来の軟包装では対応できなかった「刺激の強い内容物」に耐性を持つ軟包装材料「プラピカ」の拡販期待

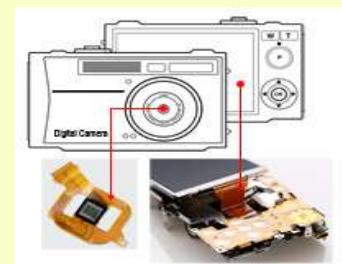
上期売上高 1,923百万円
前年同期比 ▲169百万円



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況(産業資材)

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



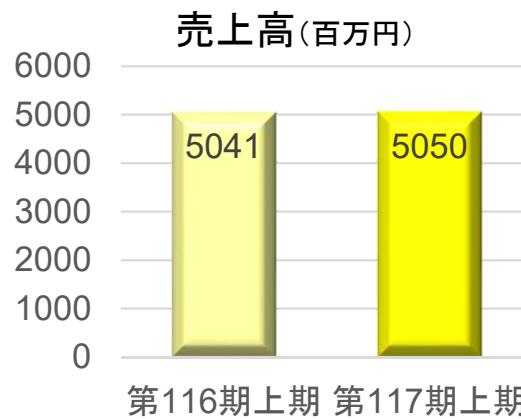
シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 5,050 百万円 (前年同期比 0.2 % 増)
- 営業利益： 117 百万円 (前年同期実績 ▲99百万円)



- 増収増益(黒字化)
- 出荷数量減少

原材料価格や電力、燃料費上昇分の価格転嫁が、顧客に徐々に受け入れられ、収益性改善が進みつつある。その結果、テープ基材関係の出荷数量が減少したが、営業利益はプラスに転じた。

紙・布へのラミネート製品

主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売

市場環境

- 海外製布テープ流入により減少
- 海外製OPPテープとも一部競合
- 環境対応でラミレスタイプが増加
テープそのものの使用料も減少



上期概況

- 台風シーズンでも養生テープの需要が伸び悩んだ
- 市場環境もあまりよくなく、顧客である国内テープメーカーからの受注減少

収益性・成長性

- シノムラ化学工業子会社化によりシェアを拡大し、競争優位性向上
- シノムラ化学工業とのシナジーを高め、設備活用・生産体制の最適化を図る

上期売上高 2,010百万円
前年同期比 ▲40百万円



剥離紙

テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる

市場環境

- 国内の需要減は底打ちも、消費の戻りが鈍い
- 円安で海外向けのテープ需要が増加



上期概況

- 円安により、剥離紙を使用するテープの輸出が引き続き好調
- スマートフォンやタブレット向けFPC（フレキシブルプリント基板）用工程紙の受注が好調

収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- 白物家電、自動車関連用途堅調
- FPC用工程紙は、実績が評価され顧客からの信頼が高まっている

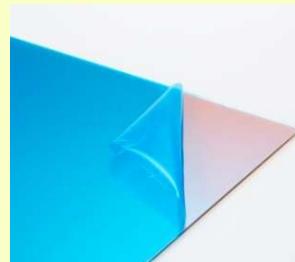
上期売上高 3,040百万円
前年同期比 +49百万円



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況(機能性材料)

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム(各種表面保護フィルム等)の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



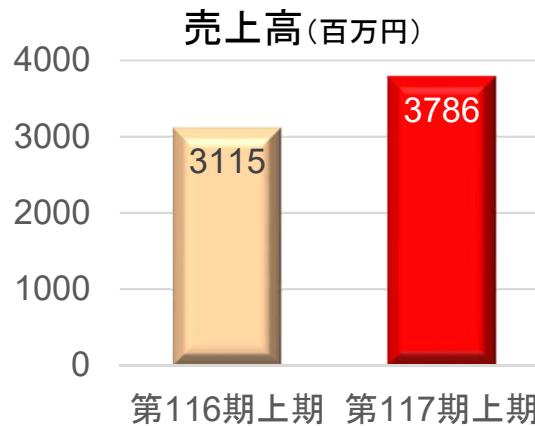
袋井工場



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 3,786 百万円 (前年同期比 21.5 % 増)
- 営業利益： 14 百万円 (前年同期比 74.8% 減)



- 出荷数量増加
- 物価高騰による、消費者の買い控えの影響あり
- 謙り受けた保護フィルム事業の売り上げが寄与するも、のれんの償却負担の発生と、試作費用など当社生産に移行するための諸費用が嵩み、增收減益
- 原材料価格や電力・燃料費高騰に対する製品への価格転嫁が進み、営業利益を確保

オレフィン系粘着加工品

業界で最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる

市場環境

- サニテクト（粘着塗工タイプ）
建材、金属加工は低調
光学用途が需要を支える
- PAC（共押しタイプ）
粘着力は弱いが、粘着塗工タイプ
代替の引き合い増



上期概況

- 物価高騰による、液晶テレビやスマートフォンなどの消費者の買い控えの影響あり
- 謲り受けた保護フィルム事業の受注が寄与

収益性・成長性

- 前期に譲り受けた保護フィルム事業を足掛かりにし、半導体等新たな市場へ進出する
- 溶剤を使用しない環境配慮型製品として強粘着タイプのPACに期待

上期売上高 2,152百万円
前年同期比 +729百万円



その他の粘着加工品

PETフィルムを基材とし、光学分野など品質要求レベルの高い用途に使用される

市場環境

- 液晶テレビ市場は成熟化し価格競争が強まったため、当社としての重点領域からは外れている
- PFASフリー等環境対応型製品を求められてきている



上期概況

- フォルダブルタイプのスマートフォンは、在庫調整により低迷
- 車載用の新規採用が進んだ

収益性・成長性

- 光学関連用途は、VR等の新技術商品が価格の問題もあり、まだ市場に定着していない
- 車載ディスプレイ拡大に伴い当社の特殊な保護フィルムの需要が増加



上期売上高 1,633百万円

前年同期比 ▲58百万円



目 次

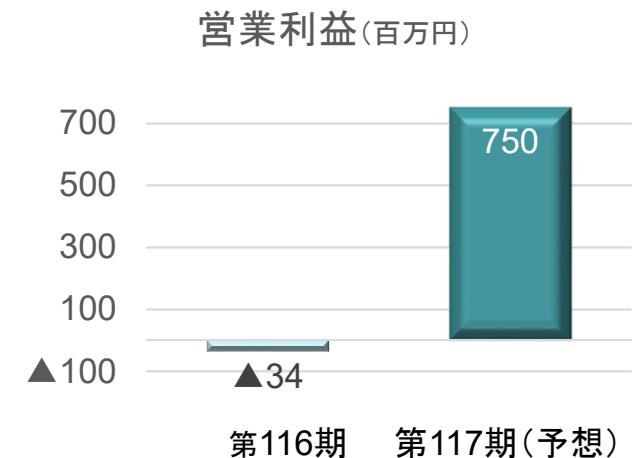
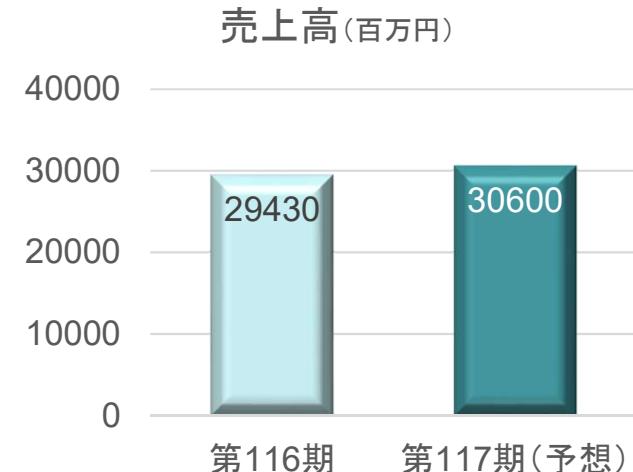
3. 第117期(2026年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第117期業績予想と今後の施策: 通期業績予想

(単位:百万円)

科目／セグメント	2025年3月期 (第116期)	2026年3月期 (第117期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,430	30,600	1,169	4.0%
軽包装材料	12,559	12,350	▲209	▲1.7%
産業資材	10,169	10,210	40	0.4%
機能性材料	6,141	7,540	1,398	22.8%
その他	558	500	▲58	▲10.5%
営業利益	▲34	750	784	—
経常利益	88	900	811	911.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	237	675	437	184.8%



第117期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

【第117期業績予想】

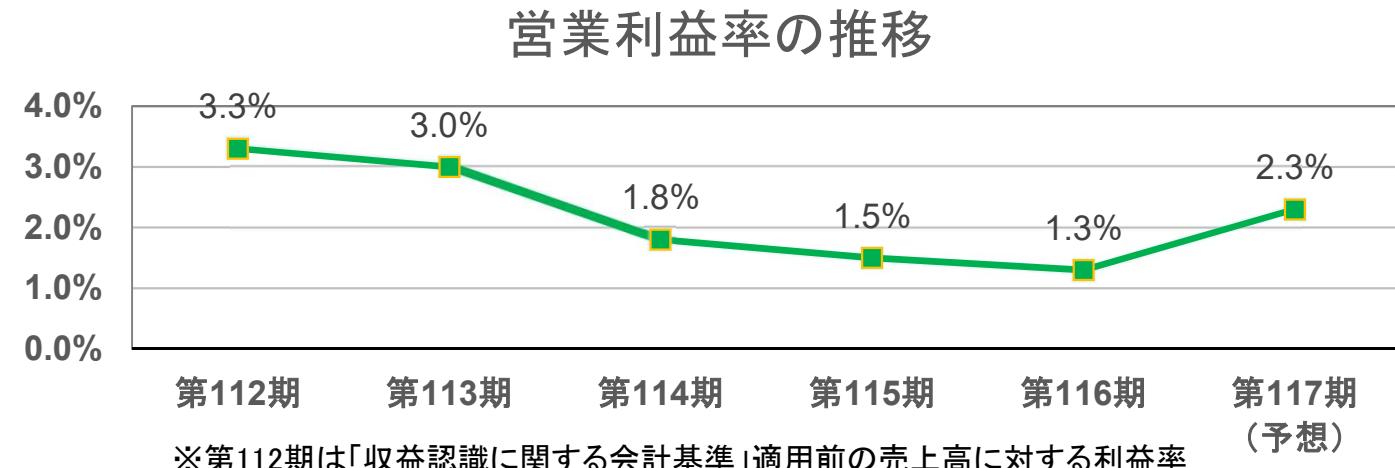
- 売上高：12,350 百万円（前期比 1.7 % 減）
- 営業利益：280 百万円（前期比 76.1% 増）



- 物価高騰による消費者の買い控え傾向は、今後も継続すると予想
- 電子レンジ対応食品包材は、新タイプの市場投入により、更なる収益拡大に期待(TOPICSにて一部ご紹介)
- 日用品、医薬品用途も環境対応のニーズが高まり、対応した製品の引き合いが増えると思われる。

第117期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

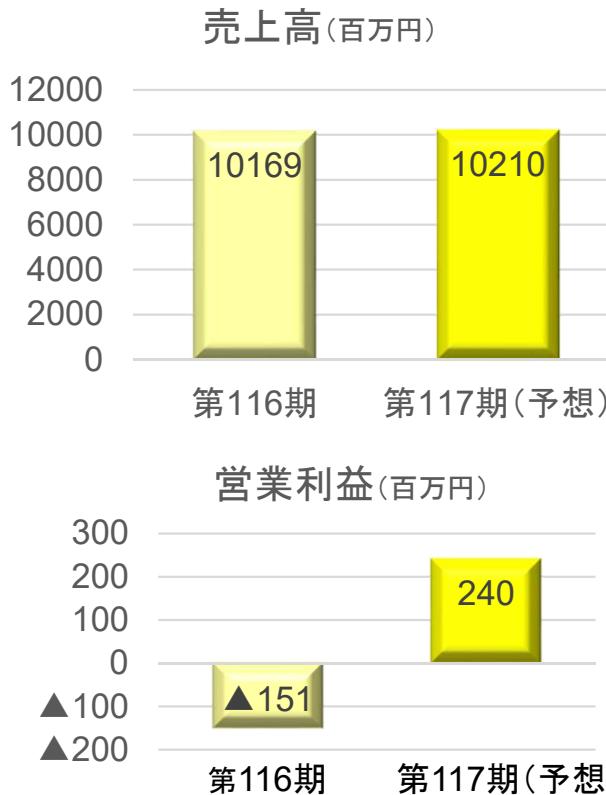
軽包装材料



- レンジ対応食品包材を使用した製品が増え、消費者の認知度も上がっている。市場ニーズに応えた環境対応品、内容物に対応した構成や形状といったラインナップの拡充を行う。
- 飲料用や液体洗剤詰替え用のパウチ、耐内容物包材「プラピカ」の拡販を進める。
- 進行中の静岡工場、奈良工場、東邦樹脂の3拠点での生産体制合理化への取り組みを完了させ、事業拡大に向け新たなステージに早期に移行する。

第117期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

産業資材



【第117期業績予想】

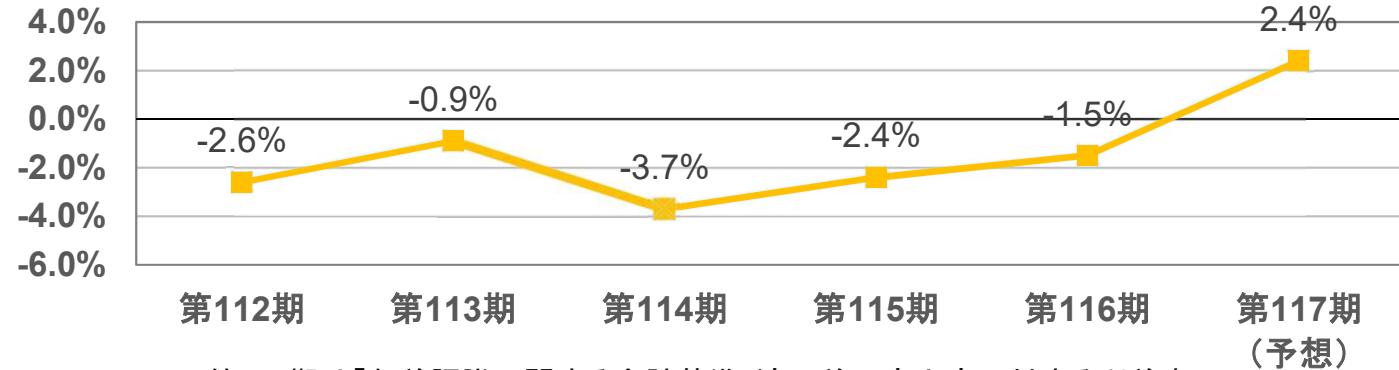
- 売上高： 10,210 百万円（前期比 0.4 % 増）
- 営業利益： 240 百万円（前期実績 ▲151 百万円）

- 価格改定や合理化により、通期営業利益も黒字化の予想
- 紙・布へのラミネート製品については、テープ業界における、一部流通企業へのサイバー攻撃の影響が流通や販売動向に波及する可能性がある。
- 剥離紙については、スマートフォンや家庭用ゲーム機向けFPC用途が堅調に推移するものと予想される。

第117期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

営業利益率の推移

産業資材



※第112期は「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高に対する利益率

- シノムラ化学工業株式会社と当社双方で同一製品を生産できる体制を構築することで、環境変化への対応力と事業継続力の強化を図っていく。
- 稼働率、加工スピードを上げ、生産体制を見直してロスを削減するといった活動を継続し、恒久的な黒字化を達成する。
- 複数の設備を操作できる多能工化を進め、フレキシブルな生産体制を構築する。
- 利益に貢献しない不採算案件をなくすため、価格改定や生産銘柄の見直し活動を継続する。

第117期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

機能性材料

【第117期業績予想】

- 売上高： 7,540 百万円 （前期比 22.8 % 増）
- 営業利益： 160 百万円 （前期実績 ▲96百万円）

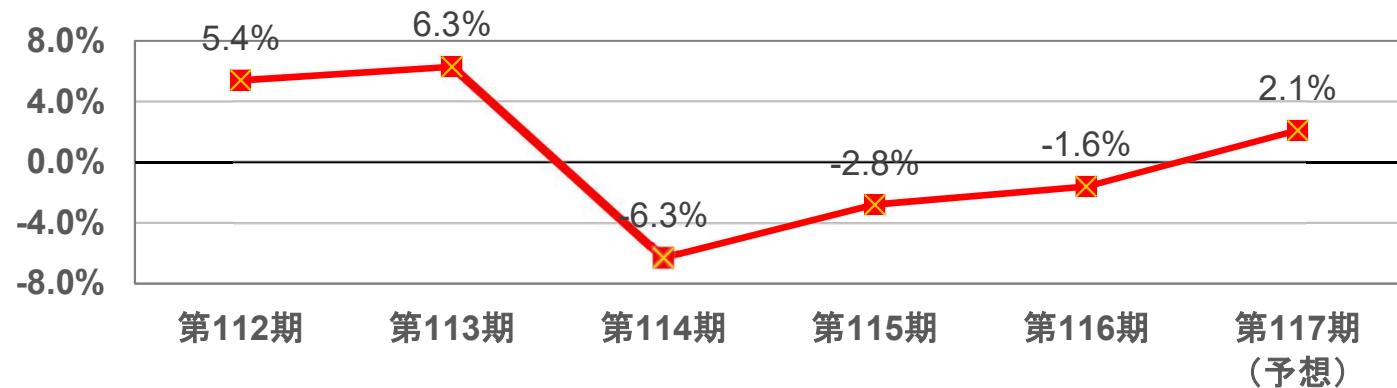


- レゾナック社より譲り受けた保護フィルム事業が、今後の計画進捗により段階的に業績に寄与する見通し
- スマートフォンやタブレット市場は、しばらく調整局面が継続すると予想
- 車載用ディスプレイの用途が拡大しており、引き続き好調を維持すると思われる。

第117期業績予想と今後の施策：今後の施策（機能性材料）

機能性材料

営業利益率の推移



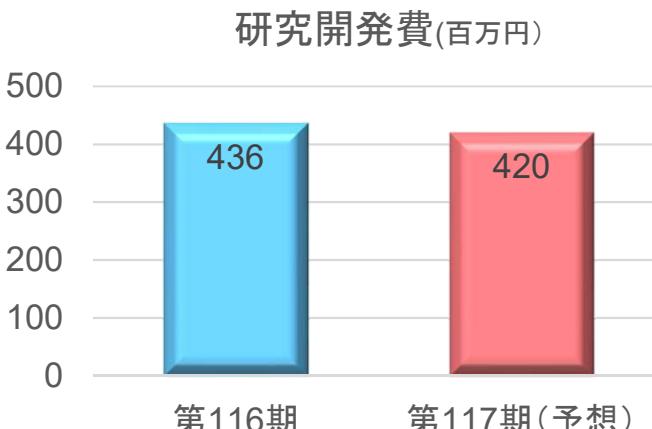
※第112期は「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高に対する利益率

- 譲り受けた「半導体リードフレームめっき」や「ステンレスの深絞り」といった特殊用途を含む表面保護フィルム事業について、設備投資を含め更なる生産性と品質の向上を目指す。
- 人員の再配置を計画的に進め効率的な生産を行い、コスト削減を進める。
- 副資材として使われる製品だけでなく、最終用途として価値を発揮する“捨てられない製品”的な開発を強化する

第117期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位:百万円)

科 目	2025年3月期 (第116期)	2026年3月期 (第117期) (予定)	備 考
設備投資額	1,304	680	事業譲り受けに伴う設備改造、その他設備更新
減価償却費	751	820	116期の環境対策設備投資などにより増加
研究開発費	436	420	従来水準を維持



目 次

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

参考情報: トピックス①

■ 「レンジDo!チャック付きタイプ」



■ 「レンジDo!耐熱タイプ」

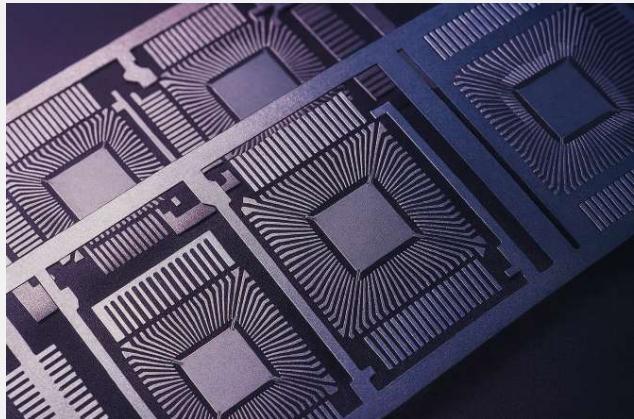


- 簡易調理市場向けレンジ袋の展開を本格化
- 調味液入り袋に家庭で食材を追加し、電子レンジで調理できる簡易調理向けレンジ袋は、大手食品メーカー製品で採用され、高い評価を得た実績を持ちます。現在も複数社で使用テストが進行しており、2026年春を目処に新規ユーザーへの出荷開始を見込んでいます。

- 耐熱タイプの開発により油系メニュー市場に新展開
- 油分の多い中華惣菜や煮魚などの、加熱時に高温となる内容物に対応するレンジ袋のニーズに応えるため「レンジDo!耐熱タイプ」を開発しました。当製品は高温の油にも耐えるフィルム構造であり、長時間加熱や冷凍食品にも対応が可能です。大手食品メーカーでも採用が進み、当社の新たな差別化商品として期待が高まっています。

参考情報: トピックス②

■ 「半導体リードフレームメッキ加工時用マスキングフィルム」



- 半導体リードフレームのメッキ加工時に使用するマスキングフィルムは、株式会社レゾナックの製品が高いシェアを占めていました。現在は当社が事業譲渡を受け、製造と販売を行っています。今後、更なる拡販のために販売活動を継続してまいります。

■ 「シンク深絞り加工時用保護フィルム」



- シンクの深絞り加工時に使用する保護フィルムは、特に高い追従性が求められます。現在は、株式会社レゾナックより事業譲渡を受け当社が製造販売を行っています。同社より引き継いだ取引先様との取引を継続するとともに、新たな販売先の開拓にも努めています。

※写真はイメージとなります

参考情報：基本情報

2025年9月30日現在

商 券 設 代 事	号 コ 立 表 業
資 事 連 決	本 業 結 算
金 内 従 期	円 容 業員 期

株式会社 サンエー化研
4234（東証スタンダード）
1942年9月（昭和17年9月）
代表取締役社長 櫻田 武志
本 社：東京都中央区日本橋本町1-7-4
営業拠点：東京、大阪、名古屋
【海外】台湾、中国上海（連結子会社 灿櫻（上海）商貿）
生産拠点：静岡、袋井（2ヵ所 内1ヵ所は連結子会社 シノムラ化学
工業（株）本社工場）、掛川（2ヵ所）、天理、野木（連結子
会社 東邦樹脂工業（株）本社工場）
研究開発拠点：掛川
21億76百万円
高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
614名
3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(2025年12月2日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 サンエー化研
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp